

和歌の修辭法

「しうあり・わたり・あはれ」接続助詞

筑紫つくしにありけるあり檜垣ひがきの御みこといひけるは、いといとらうらうあり、をかしくて、世を経た

る者になむありける。年月かくてありわたりけるを、純友すみともが騒さわぎにあひて、家も

焼け滅めび、物の具ものぐもみな取られはてて、いみじうなりにけり。かかりとも知らで、

野大式やたいし、討手うりての使つかひに下り給たまひて、それが家のありしありむむたりを尋たづねて、「檜垣の御と

いひけむ人に、いかで会あはむ。いづくにか住すむらむ」とのたまへば、「このわたり

になむ住すみ侍さむらいりし」など、供ともなる人も言いひけり。「あはれ、かかる騒さわぎに、いか

になりにけむ。訪たづねてしかな」とのたまひける程ほどに、頭かしら白しろき姫ひめの、水汲みづくめるな

む、前まへよりあやしきやうなる家に入りける。ある人ありて、「これなむ檜垣の御」

と言いひけり。いみじうあはれがり給たまひて、呼よばすれど、恥はぢて来きて、かくなむ言

へりける。

むばたまのわが黒髪くろかみは白川しろかはのみづはくむまでなりにけるかな

と詠よみたりければ、あはれがりて、着きたりけるあはれ、一重ひとへね脱ぬぎてなむやりける。

*筑紫—九州。 *檜垣の御—平安時代中期の女性歌人。 *純友が騒ぎ—藤原純友の乱。
*物の具—道具類。 *野大式—小野好古。 *和—男子が単衣の上、下裳の下に着る短い
着物。

本文要約

次の空欄を埋めよ。

檜垣の御：長年、暮よらしていた。

↓純友の乱にあい、
1 家が焼やけ、道具類

も、
2 てしまった。

野大式：
3 として九州に下る。

↓
4 の家を探す。

白髪しろかみの、
5 (檜垣の御)が現れる。

↓歌を詠む。
6

↓
7 は、
8 に相を与

える。

語彙問題

波線部 a・c の本文中での意味を記せ。

a 「しうあり」

b 「わたり」

c 「あはれ」

各4点

問一 傍線部ア～エの助詞の用法として最も適当なものを、それぞれ次から一つずつ選べ。 各1点

- ① 順接の仮定条件 ② 順接の確定条件 ③ 逆接の仮定条件 ④ 逆接の確定条件 ⑤ 打消の接続

ア □ イ □ ウ □ エ □

問二 傍線部1・5の指し示すものを、それぞれ本文中から五字以内で抜き出せ。 各2点

1 □ □ □ □ □ 5 □ □ □ □ □

問三 傍線部2・3・4を、それぞれ口語訳せよ。 各4点

2 □ □ □ □ □ 3 □ □ □ □ □ 4 □ □ □ □ □

問四 二重傍線部A・Bの修辭法を説明した次の文の空欄に、適当な言葉を補え。 各1点

A 「① □ □ □ □ □」を導く② □ □ □ □ □である。
B 「年をとる」の意で、③ □ □ □ □ □を④ □ □ □ □ □「の意との掛詞である。」

問五 「むばたまの……」の歌の上の句と下の句には、どういふ気持ちが表現されているか。最も

適当なものを、それぞれ次から一つずつ選べ。 各3点

- ① 都を懐かしく思う ② 容姿が衰えたのを嘆く ③ 好古との再会を喜ぶ ④ 落ちぶれた生活を恥じる

上 □ □ □ □ □ 下 □ □ □ □ □

文法問題

〔は〕(未然形・已然形接続)

① 未然形接続→順接の仮定条件 (～ナラバ)

② 已然形接続→順接の確定条件

↓ a 原因・理由 (～ノデ)、 b 偶然条件 (～ト・トコロ)、 c 恒常条件 (～トイツモ)

〔と〕(已然形接続)

① 逆接の確定条件 (～ガ・～ケレドモ)

〔とを〕(連体形接続)

① 順接の確定条件 (～ノデ・～カラ)

② 逆接の確定条件 (～ガ・～ノニ・～ケレドモ)

③ 単純接続 (～ガ・～ト・～トコロ)

〔と〕(未然形接続)

① 打消の接続 (～ナイデ・～ナクテ)

文法問題

次の傍線部を助詞に注意して口語訳せよ。 各2点

(1) まばゆけれど、念じて見なす。(枕)

(2) 眠たければ、みな寝ぬ。(枕)

(3) 返り事もせで、よよとぞ泣きける。(大和)

(4) 雨も降らぬに、など鏡をば着たるぞ。(十訓)